

QUARTERLY REPORT



MANAGING OFFICE
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7045
<http://www.chushiganpro.jp/>

VOL.39
2014.FEB

□ 正 誤 表 □

「Quarterly Report（季刊誌）vol.39」に次のとおり一部訂正がありましたので、お知らせいたします。

5 ページ 上段

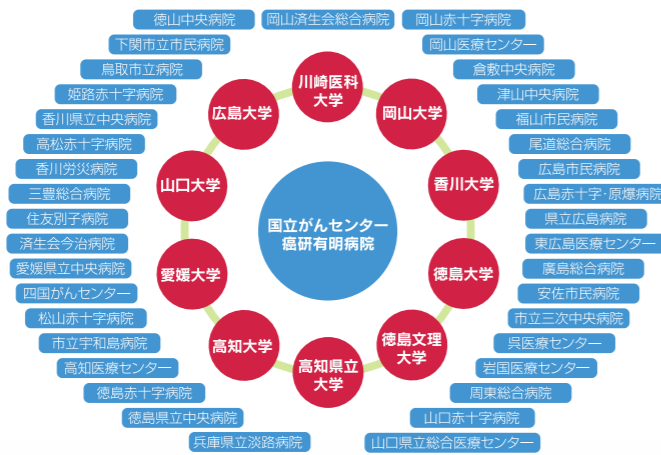
【誤】：中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムにおいて臓器横断的な講座（放射線治療学講座）を新設した。

【正】：山口大学では平成22年4月、大学院医学系研究科情報解析医学系学域放射線治療学講座ならびに附属病院放射線治療部を設立し、翌年10月に教授が着任した。

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムにおいては、臓器横断的な講座（放射線治療学講座）の充実を図るため、専任助教の医学物理士を雇用した。

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(メディカルスタッフ)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成をおこなうため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとにおこなわれる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」です。



中国・四国全域に広がる拠点病院
組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織
■ : コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院



ごあいさつ

本プランは、中国・四国地域に位置する10大学がひとつのコンソーシアムを作り、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の37のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラがなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。

がんに関わる多職種の専門医療人が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修をおこないます。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を連動させ、大学院教員の教育能力を強化しています。

各大学・地域の持つ特色を活かし、互いに補完・止揚する教育拠点を確立します。高度なレベルで標準化された共通コアカリキュラムおよびeラーニングによる域内統一教育(共育)と、大学間連携による大学、分野、職種をこえた専門職連携教育(協育)をおこないます。また、英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する医療人の養成と、地域医療機関・患者会との連携による在宅高齢者ががん医療に貢献する専門医療人の養成をおこないます。これらの活動を通じて高度な専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度ながん専門医療人が多数輩出され、中国・四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化が実現され、各大学、地域における臨床研究や橋渡し研究の活性化を目指します。

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修学生募集などの情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートを発行しています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

がんの特化した講座

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 腫瘍内科学分野

平成24年10月より、中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムで新たに、徳島大学病態予防医学講座に「腫瘍内科学分野」を開設した。これは、がんの特化した臓器横断的な教育・研究を強力に推進していくための体制の構築、また日本で不足している腫瘍内科医（がん薬物療法専門医）を育成するとともに、がん治療におけるチーム医療を推進する人材養成を目的として新設された。体制については、教授は高山哲治消化器内科学分野教授が併任し、准教授は柿内聡司呼吸器膠原病内科講師が併任、助教は宮本弘志消化器内科分野助教が併任、特任助教として消化器内科学分野佐藤桃子助教が教育を担当している。

これらの教員が中心となり、がん治療専門の医師だけではなく、看護師、薬剤師、栄養士といったがんのチーム医療に携わる人材を養成することを目指し、講義、実習、セミナー・講演会の開催・発表等を通じて教育・指導を行っている。

養成人数（平成25年12月現在）

在籍人数	平成24年度(入学者)	平成25年度(入学者)
臨床腫瘍内科学コース	27名(7名)	33名(7名)
臨床腫瘍外科学コース	15名(4名)	14名(0名)
臨床腫瘍放射線医学コース	2名(0名)	2名(0名)
臨床腫瘍学教育課程(緩和療法医)	2名(0名)	2名(0名)
臨床腫瘍栄養学コース	6名(3名)	13名(9名)
臨床腫瘍薬剤師コース	1名(0名)	1名(0名)
臨床腫瘍看護学コース	6名(3名)	6名(1名)
医学物理学コース	2名(0名)	0名(0名)

専門医取得者数	平成24年度	がん薬物療法専門医取得	1名(インテンシブコース修了者)
	平成25年度	がん薬物療法専門医取得予定	1名

講義実績

科目名	講義名	担当教員
がんチーム医療実習	チーム医療概論	高山哲治(腫瘍内科学分野教授)
臓器別がん治療各論	大腸癌の発生機序とその予防	高山哲治(腫瘍内科学分野教授)
悪性腫瘍の管理と治療	化学療法	佐藤桃子(腫瘍内科学分野助教)
悪性腫瘍の管理と治療	サポータティブセラピー	佐藤桃子(腫瘍内科学分野助教)
悪性腫瘍の管理と治療	治療薬の個人差と対応	柿内聡司(腫瘍内科学分野准教授)
がんのベーシックサイエンスと臨床薬理学	抗がん剤の副作用とその対策	宮本弘志(腫瘍内科学分野助教)
臓器別がん治療各論	原発不明がん	佐藤桃子(腫瘍内科学分野助教)
実習	がんのインターベンション治療	佐藤桃子(腫瘍内科学分野助教)

講義(実習は除く)は全てe-learning化し、中国・四国がんプロの全ての学生が聴講できるようになっている。

発表実績

平成25年度臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ) 第4回地域医療セミナーにおいて
 「進行期肺癌の個別化医療」 柿内聡司(腫瘍内科学分野准教授)
 「大腸がんに対する最新内科治療」 宮本弘志(腫瘍内科学分野助教)
 「胃がんの最新治療」 佐藤桃子(腫瘍内科学分野助教)

セミナー・講演会の開催実績

- 臨床腫瘍学・臨床腫瘍緩和医療学インテンシブコース講演会
平成25年3月9日(土) ホテルクレメント徳島 29名参加
- Seminar on Medical Physics in Tokushima
平成25年7月8日(月) 徳島大学蔵本キャンパス 青藍会館 31名参加
- 第5回Tissue Arrayセミナー
平成25年7月10日(水) 徳島大学病院日亜メディカルホール 71名参加
- がん栄養セミナー
平成25年7月20日(土) 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂 155名参加
- 平成25年度臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ)第4回地域医療セミナー
徳島県中部地域とのがん診療連携 ～患者さんの安心のために～
平成25年7月24日(水) セントラルホテル鴨島 49名参加
- Cancer Meeting in Tokushima 2013 International Symposium
平成25年8月11日(日) 徳島グランヴィリリオホテル 43名参加

今後の展望

- 今年度中にさらに、以下の5つのセミナーの開催を予定している。
- がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会
平成26年1月18日(土)～19日(日) 徳島大学医学部会議室及びスキルス・ラボ
 - 平成25年度臨床腫瘍地域医療学コース(インテンシブ)第5回地域医療セミナー
平成26年1月23日(木) 阿波観光ホテル
 - 臨床腫瘍学・臨床腫瘍緩和医療学インテンシブコース講演会
平成26年1月25日(土)徳島大学病院 日亜メディカルホール
 - 第6回Tissue Arrayセミナー
平成26年2月19日(水)徳島大学病院 日亜メディカルホール

さらに今後は、教育による人間性豊かで、優れたがん専門医療人の育成のみならず、近隣に位置する徳島県立中央病院やその他のがん診療連携拠点病院などとも連携した新たな教育プログラムの構築や、地域の方々に対してがん薬物療法やがんのチーム医療、最新のがん治療などの啓蒙活動にも力を入れていきたいと考えている。

がんの特化した講座

山口大学大学院医学系研究科情報解析医学系学域 放射線治療学分野

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムにおいて臓器横断的な講座(放射線治療学講座)を新設した。

中四がんプロにおける講座の役割

高度ながん治療及びがん研究を実践し、我が国のがん対策に大きく貢献するとともに、人間性豊かで将来を担う優れたがん専門医療人の養成を行う。本事業にて専任教員を雇用することにより放射線治療学講座として、更なる教育・研究・臨床での効率化を目指す。

講座で養成する人材像

放射線腫瘍学に精通し、病態を全身的に捉え、集学的治療の中で、或いは緩和医療の中での放射線治療の役割と適応を的確に判断できる人材を養成する。高精度放射線治療を実践するための高度の専門的知識と技術を有する人材を養成する。

教育内容の特色

症例ライブラリーによる教育用放射線治療計画システムを構築し、高精度放射線治療の治療計画に関するトレーニングをおこなう。また、実際の臨床に参加し実践力を身につけることで、次世代の臨床医を育成・教育する能力を養う。

講座教育により期待される成果

高齢化社会を迎え、がん診療における放射線治療の需要は増加の一途を辿っており、また一方で、働く世代が働きながら受けられるがん治療法の開発が社会的課題として求められている。低侵襲な高精度放射線治療のニーズは今後ますます大きくなることが予想され、上記人材を育成することでそれに応えたい。

①放射線治療学講座スタッフ

教授 1名
助教 2名
大学院生 1名

山口大学大学院医学系研究科 がん専門医療人養成
放射線治療アドバンスコース ⇒ 2名在籍

②教育(講義)

- ◆がん治療スキルアップコース(インテンシブ)セミナー教育
 - ・「最新の放射線治療法」
 - ・「放射線治療における医学物理士の役割」
- ◆学部学生教育
 - ・放射線治療学 講義
 - ・臨床腫瘍学 講義
 - ・放射線医学 臨床実習(ポリクリ)
 - ・クリニカルクラークシップ(放射線治療)

◆大学院教育

- ・臓器別がん治療各論「胸部腫瘍の各論」
- ・化学療法演習
- ・放射線療法演習
- ・カンサーボード演習
- ・放射線治療学特論
- ・放射線治療学演習
- ・放射線治療学研究演習

②教育(実習・演習)

- ◆症例検討カンサーボードにおける教育
- ◆症例ライブラリー教育用放射線治療計画システム
 - 教育用放射線治療計画システムを使用し、実際に強度変調放射線治療(IMRT)の治療計画を立案することで、高精度放射線治療の物理学的特徴及び臨床的メリットへの理解を深めるとともに、治療計画法の習熟を目指す。具体的には、最適化アルゴリズムや線量計算アルゴリズム、有害事象の低減等。また、新しい部位へIMRTを適応すべく、症例ライブラリーより症例を選択し、IMRTの治療計画を実施し、線量体積ヒストグラムや線量分布を用いて検討する。

③臨床実績

◆放射線治療実績

<主な疾患>

脳・脊髄腫瘍	15例
頭頸部腫瘍	42例
食道癌	24例
肺癌・縦隔腫瘍	48例
乳癌	48例
肝癌・胆道癌・膵癌	19例
婦人科癌	24例
泌尿器科癌	57例
リンパ腫・白血病	30例
皮膚癌・骨軟部腫瘍	11例
転移性腫瘍	50例

<特殊治療・高精度治療>

強度変調放射線療法(IMRT)	38例
体幹部定位放射線治療(肺・肝臓)	17例
小線源治療(腔内照射)	9例
ストロンチウム内用療法	4例

④がんプロ活動

- ・がんプロ大学院講義
- ・放射線治療セミナー講演
- ・医学物理士WGからの講演依頼
- ・放射線治療専門医の養成
- ・他大学との連携の充実
- ・放射線治療医WG出席
- ・海外FD研修参加予定(2月)
- ・ミャンマー医療人研修受入

がんの特化した講座

愛媛大学大学院医学系 研究科医学専攻 臨床腫瘍学講座



スタッフ

講師主任: 斎藤 芳彦
 内科学自由医、がん薬物療法専門医、血液学会指導医、感染症学会指導医
 助教: 朝井 洋品
 内科学会認定医、がん薬物療法専門医
 大学院生: 長谷部 晋士
 内科学会専門医

学部学生教育
 臨床腫瘍学(年7コマ)

臨床
 ・外来化学療法室での薬物療法の管理
 ・診療科を超えたがん化学療法導入時の助言・協力
 ・各診療科の病態にあるがん種の診療

大学院教育
 中国四国がんプロの推進

愛媛大学臨床腫瘍学がプロデュースする がんプロフェッショナル養成

- ・愛媛大学がんプロ大学院
 - 臨床腫瘍学内科コース、腫瘍科系専門医養成コース、放射線腫瘍学コース
 - 未設置 { 緩和医療専門医養成コース、がん専門薬剤師養成コース、がん看護専門看護師(CNS)コース、がん専門栄養士、医学物理士/放射線治療技師コース
- ・愛媛大学がんプロインテンシブコース
 - 薬物療法専門医養成を目的に5名という院内少数人数で当初開始(1名合格(2009年))
 - 比較的多数の医師従事者を対象に講演会・教育企画として企画(年間3-4回を企画し現在までに10回施行。啓蒙活動としての意味合いもある。近くに位置する四国がんセンターからも参加。)

現在までの愛媛大学でのがんプロ大学院生

臨床腫瘍学内科コース	血液内科	2名(既に卒業)	がん薬物療法専門医 5名/卒業志望
	消化器内科	2名(1名は卒業)	
	小児科	1名(既に卒業)	
腫瘍科系専門医養成コース	臨床腫瘍学	1名(在学中)	
	消化器腫瘍外科	1名(在学中)	
	肝臓科・乳腺科	1名(既に卒業)	
	耳鼻科	2名(1名は卒業)	
	泌尿器科	2名(1名は卒業)	
放射線腫瘍学コース	乳腺外科(西国がん)	1名(在学中・社会人枠)	
		2名(1名は卒業)	
		計16名(内6名卒業)	

愛媛大学の特色

- ・がん患者会(愛媛おれんじの会)との連携(懇話会やサロン活動)を通じた、大学院ならびに学部学生授業の充実(地域の産直会との連携)。
- ・若い世代へのがんの啓蒙活動(高校への出張授業—2013年度2回施行)(愛媛大学1年生に「がん」に関する啓蒙講義を毎年施行中)

臨床腫瘍学講座のmission

がんの**実地診療・教育・社会啓蒙**、の指導者となるべき人材を育成し、質の高いがん医療を、地域(愛媛県)に提供する。
 更には、疾患横断的な臨床研究や基礎研究を推進する。

「臨床腫瘍学」を納める“人材”とは？

- ・疾患特異的な対応に加え、臓器横断的な対応にも明るく、補助療法や症状緩和に知識を有し、全人的な対応をチーム医療の中で考察できる医療人。
 - ・「がん」を全人的に捉えることが出来る医療人。
- 「臓器・器官」を見る専門家では無く「森」を見る専門家

臓器別(木の)医学 vs 臓器横断的(森の)医療



臨床腫瘍学

国際貢献

岡山大学・山口大学

アジアからの招聘 ～ミャンマー医療人～

1. 事業の目的

中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムは、中四国地方における高度がん専門医療人養成の一端を担ってきた。さらに、高度専門知識に加え、チーム医療・リサーチマインドを身につけた全人的高度がん専門医療人を多数輩出させることで、中四国地域におけるがん治療の均てん化、標準化を目指している。今回その一環として民主化、国際化のすすむミャンマーより医師2人、看護師1人を招き、岡山大学で4週間、山口大学で1週間のFD研修を行った。

2. 研修内容

岡山大学及び山口大学における確立された外科、内科、放射線科、緩和医療、薬剤部、手術部等のがん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他医療従事者によるチーム医療を病棟、外来、手術部、薬剤部などで5週間の研修を行った。

3. 日程及びカリキュラム紹介

全日程：平成25年8月5日～9月6日のうち、山口大学の担当は平成25年8月26日～8月30日であった。

カリキュラムに関しては、我々がFD研修で経験した、Edmonton, Johns Hopkins Singapore, Moffitt cancer center等における各臓器別・各科のカンファレンス・カンサーボードや外来・病棟見学・手術見学で培ったノウハウを盛り込んだ日程とした。

山口大学での研修に先立ち、平成25年8月23・24日の両日「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム チーム医療合同演習」を山口で開催し、ミャンマー医療人にも参加頂いた。

Mid-West Japan Cancer Professional Education Consortium Exchange program of health professionals Visitor Timetable(YAMAGUCHI University)			
Date	Location	Start Time	Contact Person and Phone Number
Monday August 26, 2013	YAMAGUCHI University Main Hospital Lobby	a.m.	Dr. Nobuaki Suzuki, M.D., Ph.D. (extension 2264) Orientation, Introduction (オリエンテーション、病院紹介)
	Digestive Surgery and Surgical Oncology Room (2 nd flr) Clinical Science Building	p.m.	Dr. Nobuaki Suzuki, M.D., Ph.D. (extension 2264) Operation room (digestive & breast surgery) (消化器・乳癌外科の手術見学)
		evening	Welcome dinner
Tuesday August 27, 2013	Digestive Surgery and Surgical Oncology Room (2 nd flr) Clinical Science Building	a.m.	Dr. Nobuaki Suzuki, M.D., Ph.D. (extension 2264) Digestive Surgery and Surgical Oncology cancer board & ward round (消化器・腫瘍外科のカンサーボード)
	Professor Oka's Room (2 nd flr) Clinical Science Building	12:00~ 13:00	Professor Masaki Oka, M.D., Ph.D. (extension 2262) Luncheon Meeting
	Radiation Oncology Unit	p.m.	Professor Keiko Shibuya, M.D., Ph.D. (extension 2966) Dr. Takehiro Shinoki, Ph.D. (Medical Physicist) Radiation oncology observation (放射線治療の見学)
Wednesday August 28, 2013	Gastroenterology and Hepatology Room (5 th flr) Clinical Science Building	a.m.	Dr. Takeshi Okamoto, M.D., Ph.D. (PHS 7696) Observation of endoscopic procedures (Upper GI endoscopy, ERCP) (上部消化管内視鏡、ERCP)
	Gastroenterology and Hepatology Room (5 th flr) Clinical Science Building	13:00~ 15:00	Dr. Takeshi Okamoto, M.D., Ph.D. (PHS 7696) Observation of endoscopic procedures (Colonoscopy, ESD) (下部消化管内視鏡、ESD)
	Outpatient clinic of department of Anesthesiology(1 st flr) University hosp.	15:00~ 17:00	Dr. Norihito Hiraga, M.D., Ph.D. (extension 2291) Meeting of Palliative care medicine (緩和ケアチームの見学)
Thursday August 29, 2013	Oral and Maxillofacial Surgery Staff Room (9 th flr), Clinical Science Building	9:00~	Dr. Koji Harada, D.D.S., Ph.D., (PHS 7295) Observation of the treatment for outpatients and inpatients with oral cancer (口腔がんの外来患者と入院患者の治療見学)
	Outpatients Clinic Building (3 rd flr) 1 st Ward (8 th flr)	10:00~ 11:00~	
	Oral and Maxillofacial Surgery Staff Room (9 th flr), Clinical Science Building Operation Room (3 rd flr)	13:00~ 13:30~	Dr. Koji Harada, D.D.S., Ph.D., (PHS 7295) Observation of the operation for oral cancer (口腔がんの手術見学)
Friday August 30, 2013	Hematology, Oncology Room(5 th flr) Clinical Science Building	a.m.	Dr. Toshiaki Yujiri, M.D., Ph.D. (extension 2252) Hematology and Medical oncology observation (血液腫瘍内科の見学)
	Hematology, Oncology Room(5 th flr) Clinical Science Building	p.m.~ 15:00	Dr. Toshiaki Yujiri, M.D., Ph.D. (extension 2252) Hematology and Medical oncology observation (血液腫瘍内科の見学)

4. ミャンマー医療人研修報告会

下記のように平成25年9月6日(金)にミャンマー医療人研修報告会を行った。

アジアからの招聘 ミャンマー医療人研修報告会
Invitation of cancer medical professionals to the Faculty Development Course sponsored
by the Consortium, Okayama, Japan

日時：平成25年9月6日(金) 報告会15:00~17:30、レセプション18:00~
場所：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 基礎研究棟1階 大学院セミナー室

- 開会挨拶 15:00-15:05
中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム 代表
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学 教授 谷本 光音
- 来賓挨拶 15:05-15:10
文部科学省 高等教育局 医学教育課 課長 村田 善則
- ミャンマーと日本との今後 15:10-15:30
特定非営利活動法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会 理事長
岡山大学名誉教授・病院長特別補佐
国立ヤンゴン医科大学(I)名誉教授 岡田 茂
- がんプロ概要 15:30-15:50
岡山大学大学院保健学研究科 教授
岡山大学病院 緩和支援医療科 診療科長 松岡 順治
- 研修プログラム内容について 15:50-16:05
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学 助教 西森 久和
- ミャンマーからの研修生を迎えて 16:05-16:25
山口大学医学部附属病院 腫瘍センター准教授 吉野 茂文
- 研修者発表 ミャンマーの医療について、今回学んだこと、今後の展望 16:25-17:25
16:25-16:45
Dr. Khun Aung, Associate Professor (Surgery), Mandalay General Hospital
16:45-17:05
Dr. Shwe Sin Myint, Lecturer, Department of Surgery, University of Medicine (2) Yangon
17:05-17:25
Ms. Nu Nu Yin, Nursing Sister, Surgical Ward, New Yangon General Hospital
- 閉会挨拶 17:25-17:30

5. ミャンマー医療人を迎えてみて

ミャンマー医療人を迎えてみて(中四がんプロ岡山大学・山口大学 担当科の感想)

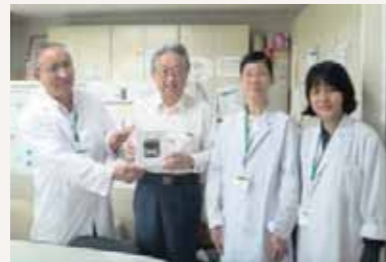
	歯科口腔外科	血液内科	放射線治療科	消化器内科	消化器外科
①内容 (見学した内容、 説明した内容)	センチネルリンパ節生検術の具体的な方法や当科での臨床統計のスライド説明。 【手術見学】 症例1 全頭郭清術の見学・説明。 症例2 下顎骨区域切除術と腸骨移植による下顎骨再建術の見学・説明。 症例3 泌尿器科のダビンチによる手術の見学・説明。スライドにて当日オペ場で見学した患者の説明。	3内科研究室:当科の造血器腫瘍治療内容の説明。造血幹細胞移植を中心に説明。感染対策室:(無菌病棟、一般病棟)感染対策の現状も説明。 輸血部・細胞治療部の見学。輸血剤の供給の様子や自己血貯血や細胞治療の説明。 CT・MRI棟、外来棟見学、リハビリ見学。	放射線治療施設を紹介した。具体的には、治療計画用のCT装置、治療に使用する医療用直線加速器、小線源治療用装置(RALS)、当院の特徴でもある動体追跡装置を見学させ、放射線治療実施過程に従い説明を行った。また、乳房に対する放射線治療方法を説明し、乳房温存療法後の放射線治療の有用性について説明した。	ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)関連手技、上部消化管内視鏡検査、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)、下部消化管内視鏡検査。 乳癌に対する乳房温存手術、センチネルリンパ節生検術の見学。 症例検討カンファレンス(キヤンサーボード)、病棟回診へ参加。	食道癌に対する縦隔鏡下食道切除術、腹腔鏡下胃管再建術の見学。
②感想 (ミャンマー医療人の方へ ひとこと)	優秀な先生や看護師をお迎えてきて、彼らが日本の機器のレベルの高さを痛感されており、我々が優れた環境で癌治療を行っていることを改めて認識した。何よりもダビンチに驚いている姿に、本学にお越し頂けて良かったと思った。	他国の医療人と交流することは有意義であると思いません。彼らと話してみてもミャンマーの医療はまずインフラの整備が必要であるように思いました。	ミャンマーのがん医療の現状を僅かであるが、理解することが出来た。特に、ミャンマーでは放射線治療の設備が非常に少ないこと、乳腺外科医にとっても、標準的な治療をおこなう上で放射線治療が難壁となっており、その普及が切望されていることを知ることができた。	アン先生は、普段内視鏡検査をされるということで、特に積極的に質問されていた。特にESD見学時には、「教科書でしか見たことのない治療が見れてよかった」と好評であった。	ミャンマー医療人は外科医および外科病棟ナースであり、非常に興味深く手術を見学し、数多くの質問をしていた。先進機器を用いた鏡視下手術や乳房温存手術は初めての経験であり日本の医療レベルの高さに驚いていた。今後のミャンマーの手術レベルの向上に必ずや役立つものと思われる。

6. ミャンマー医療人研修を終えて

今回、ミャンマー医療人研修として医師2名、看護師1名を受け入れた。カリキュラム作成に関しては、前述したように我々がFD研修で経験した、Edmonton、Johns Hopkins Singapore及びMoffitt cancer centerでのFD研修経験が非常に有用であった。彼らに会った印象は、皆とても礼儀正しく、勉強熱心、英語はとても堪能であった。ミャンマー医療人も日本の最高水準の医療を間近で見学でき、とても感銘を受けていた。同時に、受入側の医師もミャンマーの医療の現状を知り、国際交流の必要性を実感できた点で、今後の中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラムにおける国際貢献として意義のある事業であったと考える。



①岡山大学 谷本 光音コンソーシアム代表とミャンマー医療人



②山口大学 岡 正朗教授とミャンマー医療人



③手術見学1



④病棟回診



⑤手術見学2



⑥内視鏡透視見学

第2回 がん高度実践看護師WG講演会開催

がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開
～がん放射線療法と高度な看護実践～

日 時:平成25年12月14日(土) 13:00~16:30
場 所:岡山コンベンションセンター 1階イベントホール
参加者:467名

総 合 司 会: 齊田菜穂子(山口大学大学院)
講演会司会: 藤田 佐和(高知県立大学大学院)、宮下 美香(広島大学大学院)

がん高度実践看護師WG講演会では、ケアとキュアの融合を根幹に5年間の全体テーマを「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」とし、1年単位でシリーズ化した講演会を年2回企画しています。平成25年度は「がん放射線療法と高度な看護実践」をテーマに、第1回は、がん放射線療法についての基本的知識や代表的な有害事象への対応とセルフケア支援について学びました。今回は、有害事象(口腔粘膜炎、消化器症状)への対処とセルフケア支援や化学放射線療法を行っている患者さんへの支援について3名の講師をお招きし、講演会を開催しました。

【講演者】

- ・遠藤 貴子 氏(静岡県立静岡がんセンター がん看護専門看護師)
「放射線口腔粘膜炎への対処とセルフケア支援」
- ・上田 恵巳 氏(鳥取大学医学部附属病院 がん看護専門看護師)
「消化器症状(悪心・嘔吐、下痢など)への対処とセルフケア支援」
- ・後藤 志保 氏(がん研有明病院 がん看護専門看護師)
「化学放射線療法を行っている患者への支援」

【終了報告】

第2回がん高度実践看護師WG講演会は、中四国全域から467名と多くの参加者があり、収容人数500名の会場は看護職の学習意欲に満ちていました。アンケート結果(回答率73.4%)より、98%の参加者が今回のメインテーマに関心をもっており、そのうち94%の参加者が講演に対して満足していると答えていることから、参加者のニーズに沿える企画であったと考えます。また、参加者の69%が都道府県および地域がん診療連携拠点病院に所属していることや、参加者は52%が自施設でがん看護専門看護師が活動していると答えていたことから、高度ながん看護実践を期待される職場環境にいることや、がん看護専門看護師の浸透が進んできていることがうかがえました。さらに、参加者の88%が講演を通してがん看護のキャリアアップを目指す動機づけになったと答えていることや、参加者の28%が、がん看護専門看護師の資格を取得したいと答えていることから、がん看護の専門性を高めることへの関心の高さがうかがえました。

今回の講演では、共通して役立つと思われる内容として「口腔粘膜炎の基礎知識、観察、アセスメント、ケア」や「放射線療法を行っている患者への支援」「化学放射線療法を行っている患者への支援」など16項目があげられました。また、今後のテーマとして、がん患者の家族に対するケアやチーム連携、緩和や在宅にも活かせる内容などについても行ってほしいなど、次年度への課題をいただきました。

平成25年度がん高度実践看護師WG講演会では、がん放射線療法の看護実践にすぐ役立つ知識から、看護を支える考え方まで、広く深い学びを得ることができました。本年度は、299名に継続して参加していただき、参加証明書を交付しました。次年度も、年2回の講演会どちらも参加していただいた方ががんプロから参加証明書を発行し、参加意欲を高めることにもつながりたいと思います。今後も多くの皆さまの、ご参加をお待ちしております。



代表 谷本先生のご挨拶



総合司会の齊田先生(山口大学)



進行の藤田先生(高知県立大学)と宮下先生(広島大学)



受付の様子



受付の様子

【全体のサマリー】

遠藤 貴子 氏

口腔領域が照射野に入る放射線治療の頭頸部がん患者において、がん治療における口腔合併症については100%の発生頻度であり、急性期～慢性期、晩発性の発症時期別に生じる口腔トラブルについて説明されました。中でも、口腔粘膜炎について、発生機序から粘膜炎の分類、発症時期などについて詳細に述べられました。そして、がん患者のQOL低下を招かないためにも、治療側と患者側がもつ口腔粘膜炎のリスク因子を把握し、評価・管理が重要であることが説明されました。また、口腔ケアについても具体的な説明をされ、口腔粘膜炎へのケアにおける基本として、①口腔内清潔保持、②口腔内保湿、③疼痛コントロールの3点が重要であることが述べられました。口腔粘膜炎へのセルフケア支援として、①粘膜炎の発症時期と経過について説明、②口腔ケアの必要性・ケア方法について説明、③症状出現時の対処方法について説明、④禁煙指導、⑤食事の工夫、⑥心理面への支援の6点が述べられました。



上田 恵巳 氏

腹部・骨盤腔に対する放射線治療の特徴を、解剖学的分類別に説明され、放射線療法に伴う消化器症状について、急性(全身性・局所性)、晩期(局所性)別に述べられました。急性有害事象でも、早期に出現する放射線宿酔については、症状マネジメントを行い、①患者への説明、②症状のモニタリング支援、③休息と気分転換を図れるよう支援、④食事摂取を支援する、セルフケア支援が説明されました。また、照射線量に伴い生じてくる有害事象として、悪心・嘔吐、胃・腸粘膜炎、下痢について、病態生理やアセスメントの視点などを丁寧に説明され、それぞれの症状に応じたセルフケア支援について具体的な支援方法が述べられました。また、晩期有害事象についても、便秘・潰瘍・出血・イレウスの病態生理やアセスメントの視点などを丁寧に説明され、セルフケア支援として、①患者への説明、②症状のモニタリング支援、③肛門周囲の清潔の保持、④安静の保持について具体的な支援方法が述べられました。セルフケア支援の実際として、事例を通してより具体的なアセスメントや支援内容について説明をされました。



後藤 志保 氏

化学療法と放射線療法を併用する目的は、①がん化学療法の増感作用をもって放射線療法単独治療よりも奏効率を高めること、②放射線療法によって局所制御を行うとともに、化学療法で微視的な遠隔転移を抑制することであり、併用方式として、同時・順次・交替があることや細胞周期との関係について説明されました。そして化学放射線療法に対する看護として、①化学放射線療法をうける患者が、治療計画に基づいた安全かつ確実な治療を完遂できる、②化学放射線療法をうける患者が、可能な限り有害事象を軽減され(安楽)、その人らしい生活を送ることができるということについて、ご所属の現状を踏まえながら述べられました。また治療の実際について、画像などを用いて視覚的にもわかりやすく説明があり、事例を交えながら、予測性をもち看護ケアを提供していくことの重要性について話されました。



【参加者アンケート結果】

参加者467名のうち343名(回答率73.4%、うち中国71%、四国27%、その他:2%)から回答をいただきました。メインテーマ「がん患者の治療・療養・生活過程を支える高度な看護実践の展開」について、興味のある内容と答えた方は98%(非常にあった57%、まあまああった41%)であり、具体的に看護の展開がわかったと答えた方は96%(よくわかった44%、まあまあわかった52%)でした。また、具体的な学びとして「口腔粘膜炎の基礎知識、観察、アセスメント、ケア」や「治療計画画像の読み取りを看護師も知っておく必要があること」「セルフケア支援にむすびつくための病態生理」「化学療法と放射線療法を併用患者の有害事象(アセスメント)とケア」などがあげられ、参加者のニーズに応えられたのではないかと考えられました。

がん高度実践看護師WG講演会への参加者数は、年々増加傾向にあり、がん看護に関心のある看護職数は増加していると考えます。参加者の皆さまより、「7月、12月の講演内容を踏まえて看護に活かしていきたいと思う」「このような講義が無料で受講できて有難い」「頻回に開いて欲しい」など、本講演会の継続性やご要望のメッセージをいただきました。次年度もより質の高い講演会が開催できるように、取り組んでいきたいと考えております。

文責:高知県立大学大学院看護学研究科 藤田 佐和

活動報告

岡山

第4回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日時:平成25年6月18日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 入院棟11F カンファレンスルーム(11G)
参加者:15名

座長 岡山大学病院医療技術部放射線部門 大野 誠一郎

- 19:00~20:00
「MRIで見える新しいコントラストの基礎から応用~MRE&QSI~」
東京大学医学部附属病院 放射線部 畑 純一 先生
- 20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象にMRを用いた新しい検査技術について東京大学医学部附属病院の畑 純一先生から講演して頂きました。

MRE(MR Elastography)は近年注目されている弾性度の違いを画像化する新しい技術とされ、腫瘍の分析や筋肉の機能評価への応用として注目されています。同様に、QSI(Q-Space Imaging)についても、DWI(拡散強調画像)の応用として注目されており、東大病院での運用とその有用性についてわかりやすく説明して頂きました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。

岡山

第6回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日時:平成25年6月25日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 入院棟11F カンファレンスルーム(11H)
参加者:10名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

- 19:00~20:00
「放射線技術科学の発展とその将来展望」
元大ヶ池診療所 服部 始 先生
- 20:00~20:30
フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象、放射線技術科学の発展について、過去から現在までの知見を深め、未来に向けてディスカッションできる内容を企画しました。

これまでの放射線技術の歴史を中心に、服部 始先生により、学校教育や当時の放射線機器の特徴、CT装置、MRI装置などの導入経緯等について解説がなされました。

また、ご自身の大学院への進学等の話も交えて、将来の発展に向けて若手スタッフに対して熱心にお話して頂き、有意義なセミナーでした。

高知 第3回 がんプロ国際セミナー「地域医療について」

テーマ:地域医療について

日時:平成25年7月2日(火) 18:00~

場所:高知大学医学部

低侵襲手術教育・トレーニングセンター(レジデントハウス1F)

参加者:32名

終了報告

本セミナーでは、本学学生3名と協定校である John A Burns School of Medicine(ハワイ大学医学部)の学生2名が、それぞれの国の「地域医療について」をテーマに英語でプレゼンテーションを行いました。

質疑応答では、互いの国の医療や文化などについて、活発な意見交換が行われていました。

本学学生だけでなく、高知県立大学からも5名の学生が参加し、参加者からは、「英語は難しかったが貴重な体験だった。」「海外の医療についてもっと学びたいと思った。」などの感想がありました。



川崎 第1回 FDWG

日時:平成25年7月6日(土) 13:00~

場所:ピュアリティまきび

議題

1. 平成24年度海外FD研修実績について
2. 本年度FD研修について
3. その他

徳島 Seminar on Medical Physics in Tokushima

日時:平成25年7月8日(月) 18:30~20:00

場所:徳島大学蔵本キャンパス内 青藍会館

参加者:31名

はじめに: 上野 淳二先生

徳島大学大学院HBS研究部医用情報科学

司会: 生島 仁史先生 徳島大学大学院HBS研究部医用情報科学

■「Present status of proton beam therapy at MD Anderson Cancer Center」

Kazumichi Suzuki PhD, Department of Radiation Physics,
The University of Texas, M.D. Anderson Cancer Center

終わりに: 原田 雅史先生 徳島大学大学院HBS研究部放射線科学

終了報告

医学物理士にとって重要な基礎知識を解り易く説明してもらおうと同時に、治療医にとっても陽子線治療に関する注意点や経済的なことなどを紹介してもらい大変有意義であった。



岡山 第5回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日時:平成25年7月9日(火) 19:00~20:30

場所:岡山大学病院 管理棟8F 第10カンファレンスルーム

参加者:13名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

■19:00~20:00

「画像工学を用いた高精度放射線治療支援」

九州大学大学院医学研究院

保健学部門医用量子線科学分野 准教授 有村 秀孝 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に画像工学を用いた高精度放射線治療支援について九州大学大学院医学研究院の有村 秀孝先生から講演して頂きました。

画像工学は古くから、医用画像処理において放射線診断の臨床領域において良く応用されてきましたが、近年、放射線治療においてもIGRTに代表されるデジタルX線画像を取り扱う頻度が増えています。

特に呼吸同期照射や線量評価において、照射中に取得された画像を利用し、解析評価するための画像処理が注目されています。講演の中では、これまでの研究内容について紹介して頂きながら、わかりやすくその有用性について説明して頂きました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。



徳島 大学院臨床腫瘍学教育課程 第5回 Tissue Array セミナー

日時:平成25年7月10日(水) 18:30~20:00

場所:徳島大学病院 日亜メディカルホール

参加者:71名

開会挨拶:徳島Tissue Array 研究会代表 丹黒 章

司会:徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

人類遺伝学分野 井本 逸勢 教授

演題:「定量プロテオミクスの最前線」

講師:夏目 徹 先生 独立行政法人 産業技術総合研究所 (AIST)

創薬分子プロファイリング研究センター (molprof) 研究センター長

終了報告

プロテオミクス解析の第一人者に創薬のためのストラテジー、前臨床段階での解析精度を上げるためのロボットの製作と活用などわかりやすく解説頂き、その成果に驚いた。参加者は熱心に聴講し、質疑応答も活発に行われた。

参加者から、「蛋白解析の第一人者である産業技術総合研究所創薬分子プロファイリング研究センター (molprof) 研究センター長 夏目 徹先生の講義を直接拝聴出来、非常に有意義な講演会であった。」と評価をいただいた。



岡山 第6回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日 時:平成25年7月13日(土) 13:00~18:20
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 保健学科棟3F 301室
参加者:19名

大学院公開講座 「放射線治療品質管理学特論」
司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

講師:国立がん研究センター東病院 臨床開発センター
粒子線医学開発部 粒子線生物学室 室長 西尾 禎治 先生



- 13:00~14:30 「放射線治療線量計算2」
- 14:40~16:10 「陽子線治療1」
- 16:20~17:50 「陽子線治療2」
- 17:50~18:20 質疑応答

終了報告

毎年開講している大学院保健学研究科「放射線治療品質管理学特論」の一部を公開形式としてジョイント開催された。徳島県、広島県、山口県など県外からの参加があったが、前回から県内参加者が増えており、がんプロ活動が周知されつつあると思われる。

講義では基礎から応用まで幅広く、有意義な内容であった。次年度は、さらに多数の参加者が集うように周知させていきたい。

岡山 第7回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日 時:平成25年7月16日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟8F 第10カンファレンスルーム
参加者:24名

座長 岡山大学病院医療技術部 赤木 恵明

■19:00~20:00

「進化するX線CT技術(MDCT・ADCTの問題点と将来展望)」

藤田保健衛生大学医療科学部診療放射線学科 准教授 辻岡 勝美 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象にX線CT技術の変遷と最新情報について藤田保健衛生大学医療科学部の辻岡 勝美先生から講演して頂きました。X線CT技術の中でもヘリカルスキャン技術は辻岡先生らの研究グループを中心に開発された経緯があり、放射線診断の臨床領域において大きな発展に繋がっています。講演の中では、原理的な内容からMDCT、ADCTといった現在、臨床機として使用されているX線CT装置における課題に関する研究アプローチについて、わかりやすく説明して頂きました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされ、盛況に終わりました。

岡山 第8回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日 時:平成25年7月23日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟6F 第7カンファレンスルーム
参加者:11名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

■19:00~20:00

「福井大学Aiセンター開設から現在の状況(Aiの可能性とその限界について)」

福井大学医学部附属病院 放射線部 副技師長 西島 昭彦 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象にAi(Autopsy Imaging)の基礎と臨床実践について、福井大学医学部附属病院の西島 昭彦先生から講演して頂きました。

Aiは、異状死の特定や死因の究明において剖検とともに、X線CT装置やMRI装置を利用した画像検査として重要とされつつあり、放射線診断の臨床領域においても注目されています。

講演の中では、福井大学におけるAiセンターの位置づけやこれまでの経緯、実績や運用体制について、わかりやすく説明して頂きました。

ディスカッションでは、参加者からAiに関する様々な質問や意見を交えて活発な議論が交わされ、盛況に終わりました。

岡山 第8回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日 時:平成25年10月15日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟8F 第10カンファレンスルーム
参加者:12名

座長 岡山大学病院医療技術部放射線部門 大野 誠一郎

■19:00~20:00

「MRIの最新技術とその原理」

株式会社 日立メディコ 西原 崇 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、MRIの最新技術とその原理について、株式会社日立メディコ西原 崇先生に講演して頂きました。MRIの基本原理解から応用事例まで、日立製MRIの紹介とともに、3T MRIに関する最新機器の特徴や温度計測技術など新しい機能について解説がなされました。

また、日立製MRIの有用性と日常診療への応用技術として、基礎的な内容から臨床応用に至るまで幅広く講義をして頂きました。これから市場に出てくる3T MRIでは頭部での応用が期待されているとのことであり、従来は描出が困難であった部位の可視化に優れていることがわかりました。

愛媛 第3回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日時:平成25年11月1日(金) 17:30~18:40
場所:愛媛大学医学部 第1ゼミナール室
参加者:19名

司会:愛媛大学大学院医学系研究科臨床腫瘍学
教授 葉師神 芳洋 先生

■17:30~18:40
特別講演座長:愛媛大学大学院医学系研究科
臨床腫瘍学 教授 葉師神 芳洋 先生



■「節外性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の診断と治療」

演者:埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科 教授 新津 望 先生

終了報告

本セミナーで新津先生は、消化管、精巣、脳、甲状腺、乳腺、縦隔に生じるびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の特徴と治療法を解説され、さらに各疾患において注目する点を、ご自身が経験された症例を例に取りながら分かりやすく解説されました。
近年、日本血液学会は、「血液疾患ガイドライン」を発表しましたが、この編集に新津先生ご自身も参加され、その際の苦労話やこのガイドラインを生かした治療戦略の重要性を強調されました。
セミナーには病院内の医療従事者に加え、学部学生の参加もあり、セミナー後には活発に意見交換が行われました。当日は、悪性リンパ腫の診療を行う医療者にとって貴重な体験・セミナーとなりました。

愛媛 第4回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日時:平成25年11月15日(金) 17:30~18:30
場所:愛媛大学医学部 第2ゼミナール室
参加者:20名

事例検討会

座長 愛媛大学医学部附属病院
緩和ケアチーム 坪田 信三 先生

■①当院での緩和ケアに関して

愛媛大学医学部附属病院 緩和ケアチーム 坪田 信三 先生

■②市立宇和島病院緩和ケアチームの関わり

市立宇和島病院 看護部 井上 幸子 先生

終了報告

当院と近医で加療されていた患者の経過を繋ぎ合わせ、ケア全体を振り返る事例検討会を開催しました。
家族の想い、夫婦関係などが、改めて明らかにすることができました。
また、ケアの継続性といった観点からすると、一度退院してからの他院での入院では、医師は診療情報提供書を持参させるが、看護サマリーを受け渡しを行わないことの問題点も明らかになりました。
患者と家族関係、ケアの継続性というところからも興味がわく事例検討会となりました。



岡山 第7回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日時:平成25年11月19日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 管理棟8F 第10カンファレンスルーム
参加者:27名

座長 岡山大学病院医療技術部 赤木 恵明

■19:00~20:00 「診断領域の線量計取扱法および測定法」
東洋メディック株式会社

営業情報部 営業情報室 黒田 武弘 先生
西日本技術部 大阪技術一課 近藤 武行 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、診断領域の線量計取扱法および測定法と題して、東洋メディック株式会社の黒田 武弘先生、近藤 武行先生に情報提供を頂きました。主に診断用X線発生装置およびCT装置における線量測定技術および線量計の取扱法について解説がなされました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わられました。

参加者感想

今回のセミナーでは、診断領域の線量計取扱法と線量測定法について、基礎的な内容から、実際に大学病院で取得したデータを利用した臨床応用事例に至るまで幅広く講義をして頂きました。
診断領域では医療被ばくの適切な評価法が問題とされており、国際勧告も含めて施設内での対応を検討する機会が増えていますが、本セミナーを通じて線量計の適切な使用と放射線管理について知るきっかけになりました。

岡山 第11回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

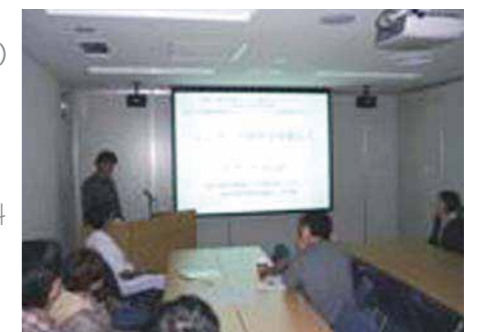
日時:平成25年11月26日(火) 19:00~20:30
場所:岡山大学病院 入院棟11F カンファレンスルーム(11H)
参加者:16名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

■19:00~20:00 「リニアック更新を経験して」

独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター統括診療部放射線科
照射主任 宮川 敬 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、リニアック装置更新時の経験や技術について岩国医療センターの宮川 敬先生から講演して頂きました。
リニアック装置の更新は通常10年~15年に1度であり、臨床現場で導入に関わることができる頻度は比較的少ない状況です。加えて、更新される装置は新しい技術や機能が搭載されることが多く、事前準備が必要となります。本セミナーでは、リニアック更新時の準備や手続きの流れ、放射線施設の法的な対応や苦労話に至るまで、わかりやすく説明して頂きました。

参加者感想

リニアック更新に関して、準備期間から稼働開始に至るまで時系列で説明して頂き、更新時のノウハウや苦労話に至るまで幅広く講義をして頂きました。リニアック更新時には新しい技術が導入されるため、周囲の期待が膨らんでいる一方で、環境整備や臨床での運用に関する課題があるとのことでした。本セミナーではわかりやすく講義をして頂き、とても有用に感じました。

岡山 第11回 岡山大学医学物理士インテンシブコースがん放射線科学セミナー

日 時:平成25年12月3日(火) 19:00~20:30
場 所:地域医療人育成センターおかやま (MUSCAT CUBE) Muscat Sim1 (講義室)
参加者:15名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

■19:00~20:00

「放射線治療計画装置Eclipseワークショップとその品質管理」

株式会社バリアンメディカルシステムズ 販売本部

販売支援部 原 毅弘 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション



終了報告

本セミナーでは、放射線治療計画装置Eclipseの品質管理について、バリアンメディカルシステムズの原 毅弘先生に講演して頂きました。放射線治療計画装置は、放射線治療装置の物理特性を再現するシミュレーションソフトウェアであり、近年の高精度放射線治療では欠かせないシステムとなっています。また、システムの管理運用および品質管理が重要とされつつあります。本セミナーでは、最新機能や概要についてわかりやすく解説をして頂き、また実機での実演をして頂きました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。

参加者感想

放射線治療計画装置Eclipseの品質管理について、基礎的な内容から臨床応用に至るまで幅広く講義をして頂きました。高精度放射線治療は、岡山県内では大学病院を含めて4施設しか可能となっていないが、今後、導入していく施設があり有用なセミナーであった。自社で生産する放射線治療装置とともに物理データの標準化を進めることで、将来的に高い信頼性で放射線治療計画装置の運用管理が可能とのことであり、大いに期待された。セミナーではこれらの基本的な話と応用事例について詳しく解説して頂き、とても勉強になりました。

10大学 第15回 コンソーシアム協議会

日 時:平成25年12月4日(水) 15:00~
場 所:岡山大学医学部 管理棟3階 大会議室

議 題

■協議事項

1. 平成26年度予算配分について
2. その他

■報告事項

1. 各WGからの報告
2. 各大学の事業進捗状況報告
3. その他



愛媛 第5回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

日 時:平成25年12月13日(金) 17:00~18:30
場 所:愛媛大学医学部 創立40周年記念講堂
参加者:127名

■『これまでのがん看護 これからのがん看護

~がん看護の現状とその問題点、これからのチーム医療を含めた展望について~』

講師:慶應義塾大学看護医療学部 教授・日本がん看護学会 理事長 小松 浩子 先生

終了報告

講師の小松先生は、がん看護の第一人者としてがん政策や看護教育に携わっていらっしゃいます。

「これまでのがん看護、これからのがん看護」と題した本講演会において先生は、患者や家族に最も近い職種としての「がん看護」の更なる強化が、がん対策推進基本計画(2次)施策で求められていること、また、今後「がん看護」において発展させていかなければならない「5つのベクトル」(エビデンスに基づく実践、個別化医療の推進と看護、ピアサポートの役割、緩和ケアの均てん化、グローバルな看護)の重要性を示されました。

更に先生は、「5つのベクトル」1つ1つについて、具体的な例を用いて説明されました。また、ご自身が取り組んでいらっしゃる研究の内容や成果も示されました。「がん看護」においては、個別化ケアやそのケアコーディネートなどの課題は残るものの、今後は「施設完結型」の高度医療から、人々の生活や環境を包括的に捉える「多次元のケア」推移していくことが予想されます。その中心に看護職があることが、聴講者に強く伝わったと思われる講演会でした。



岡山 第13回 岡山大学医学物理士インテンシブコース地域連携セミナー

日 時:平成25年12月17日(火) 19:00~20:30
場 所:岡山大学病院 管理棟8F 第10カンファレンスルーム
参加者:7名

座長 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

■19:00~20:00 「MRIによる脳血流測定について」

福井大学医学部附属病院 放射線部主任診療放射線技師 藤原 康博 先生

■20:00~20:30 フリーディスカッション

終了報告

本セミナーでは、MRによる脳血流測定について福井大学医学部附属病院の藤原 康博先生から講演して頂きました。MRを利用した脳血流測定は近年、3T装置の普及に伴い、撮像シーケンス開発が進んでいることが知られています。特に虚血性疾患が疑われる際に、従来のDiffusion撮影に加え、臨床ニーズが高まっている技術であることが注目されています。本セミナーではこれらの撮像プロトコル(ASL, DSC)の技術的・臨床的課題や病院での運用事例とその有用性についてわかりやすく説明して頂きました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。

参加者感想

今回のセミナーではMR分野における脳血流測定の有用性と日常診療への応用技術として、基礎的な内容から臨床応用に至るまで幅広く講義をして頂きました。脳血流測定は、従来からSPECTによる核医学診断が知られており、近年ではCTによる脳血流測定も応用事例が報告されていますが、MRにおいても臨床ニーズが増えており、期待されているとのことでした。特に3T装置の導入などハードウェアの急速な進歩に伴い、ソフトウェア技術の発展も著しく、本セミナーではMRでの脳血流測定の基礎知識と技術応用とともに最新臨床技術についてわかりやすく講義をして頂き、とても有用に感じました。

参加大学

Consortium Member



川崎医科大学 Kawasaki Medical School

がん専門医養成コース
●学務課教務係
TEL(086)464-1012



岡山大学 Okayama University

がん専門医養成コース・がんプロ在宅高齢者緩和コース
精神腫瘍医コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当
TEL(086)235-7986

がん専門・指導薬剤師養成コース
●医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当
TEL(086)251-7923

高度実践看護師(がん看護)コース
がん放射線科学コース
●医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当
TEL(086)235-7984



広島大学 Hiroshima University

がん専門医養成コース
がん専門薬剤師養成コース
がん看護高度実践看護師養成コース
医学物理士養成コース
●医歯薬保健学研究科等学生支援グループがんプロ事務室
TEL(082)257-1538



山口大学 Yamaguchi University

腫瘍外科アドバンスコース
腫瘍内科アドバンスコース
放射線治療アドバンスコース
研修医腫瘍専門医コース
●医学部学務課大学院教務係
TEL(0836)22-2058



愛媛大学 Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース
●医学部学務課大学院チーム
TEL(089)960-5868



高知県立大学 University of Kochi

※2011年4月より「高知女子大学」から
校名を変更しました。

がん高度実践看護師(APN)養成コース
●学生課大学院担当
TEL(088)847-8580



高知大学 Kochi University

臨床腫瘍内科学コース
放射線治療専門医コース
臨床腫瘍外科学コース
がん専門薬剤師養成コース
医学物理士養成コース
●医学部・病院事務部学生課大学院担当
TEL(088)880-2263



香川大学 Kagawa University

腫瘍内科系専門医養成コース
緩和医療専門医養成コース
腫瘍外科系専門医養成コース
放射線治療専門医コース
●医学部総務課学務室大学院入学試験係
TEL(087)891-2074



徳島文理大学 Tokushima Bunri University

がん専門薬剤師履修コース
●香川キャンパス庶務渉外グループ
TEL(087)894-5111



徳島大学 Tokushima University

臨床腫瘍内科学コース・臨床腫瘍放射線医学コース
臨床腫瘍外科学コース・臨床腫瘍栄養学コース
●医歯薬事務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース
●医歯薬事務部薬学部事務室学務係
TEL(088)633-7247

臨床腫瘍看護学コース・医学物理学コース
●医歯薬事務部学務課第二教務係
TEL(088)633-9009

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.39

□ 編集兼発行者

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp

□ 印刷所

有限会社 ファーストプラン